※令和３年度以前入学生用

学校番号	3008

令和４年度　電子機械科

教科	工業	科目	電子機械製図	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「機械製図」　（実教出版）						
副教材等	機械製図　練習ノート　（実教　出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

1.授業時間内に図面を完成させ、作品の提出期限を守る。
2.完成した図面は、必ず自分自身で検図行ってから提出するようにする。
3.プリントを用いて、生徒一人ひとりの理解を図り、きめ細かな指導に努める。
4.作品として、軸支持台（2）、軸受、ボルト・ナット、フランジ型たわみ軸継手、こま形自在軸継手の図面を完成させ、設計製図は、製図の基礎のほかに「機械設計」・「実習」・「機械工作」とも関わっていることを理解して、製図に応用する。

２　学習の到達目標

機械分野の製図の基礎的な知識と技術を習得させ、ものづくりに必要な製作図面を正しく読み取り、正確・明瞭・迅速に図面を構成し美しく作成する能力を育てる。
図面の基礎作品として、軸支持台（2）、軸受、ボルト・ナット、フランジ型たわみ軸継手、こま形自在軸継手の作品を完成させる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・製図作業者としての望ましい心構えや態度を身に着けさせる。 ・製図に関心を持ち、他の専門科目と関連付けて、その意義を理解しようとしている。	・製図について、「機械設計」・「実習」・「機械工作」との関連を的確に把握できる。 ・機械製図の規格を理解し、的確に判断し活用できる。	・製図に関する基礎的な知識を、的確に図面に表現できる。 ・機械製図の規格に基づいて、分かりやすい図面を作成できる。	・製図に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・現代の工業生産の社会活動において、図面が、どのような役割を果たしているか理解できる。
評価方法	出席状況　　30% 課題・実技 （作品の完成度）70%	作図図面の提出 （正確に、早く、美しく、作品が完成出来ていること。）	正確に、早く、美しく、作品が完成出来ていること。	授業中の図面作成進渉状況 ・作図図面の理解度と作成作業の正確さ 作図図面提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	製図の応用(Ⅱ)	製図の図形の描き方 ･軸支持台（2）、 ・軸受、 ・やり形片口スパナ、	○ ◎ ◎ ○	◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○	◎ ◎ ○ ◎	a:製図作業者としての望ましい心構えや態度の在り方に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:機械製図の規格に思考を深め、適切な作図方法の判断ができる。 c:補助・参考資料を有効に活用することができる。 d:製図に関する基礎的・基本的知識を身に着け、現代の工業生産の社会活動に果たしている。意義や役割を理解している。	出席状況 作図図面の評価 授業に取り組む姿勢・態度
2学期	製図の実践Ⅰ	製図の図形の描き方 ・ボルト・ナット、 ・フランジ型たわみ軸継手 (交差･面の粗さ･材料など)	○ ◎ ○ ○	◎ ◎ ○	◎ ◎ ○ ○	◎ ◎ ○ ◎	a:表面性状の図示方法、ネジの種類や用途、ねじの製図に関心もち、課題製図の作成を通じて意欲的に習得に取り組む。 b:機械製図の規格に思考を深め、適切な作図方法の判断ができる。 c:補助・参考資料を有効に活用することができる。 d: 表面性状の図示方法、ネジの種類や用途、ねじ製図について理解し、作図法などについて実践的に身につけている。	出席状況 作図図面の評価 授業に取り組む姿勢・態度

※令和３年度以前入学生用

3学期	製図の実践Ⅱ	製図の図形の描き方 ・こま形自在軸継手	○	◎	○	◎	a:製図作業者として、他の専門科目と関連付けて、その意義に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:機械設計・機械工作・実習との関連に思考を深め、機械製図の規格選択について判断ができる。 c:補助・参考資料を有効に活用することができる。 d:製図に関する基礎的・基本的知識を身に付け、現代の工業生産の社会活動に果たしている意義や役割を理解している。	出席状況 作図図面の評価 授業に取り組む姿勢・態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。